長野中学校だより　　平成２６年１２月９日（火）発行

生徒数５１０名

風は未来を　１２月号

「前向きに実践できる、みんなが元気な長野中」

インフルエンザはカゼじゃない！

全国的にインフルエンザが流行しています。本校でも１年４組が、インフルエンザと発熱による欠席者が３分の１に達したため１２月１０日から３日間の学級閉鎖としました。

インフルエンザは、インフルエンザウィルスに感染することによって起こる病気で、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛等全身の症状が突然現れます。小児や高齢の方、免疫力の低下している方では重症になることがあります。また、インフルエンザは流行性があり、いったん流行が始まると、短期間に多くの人へ感染が拡がります。

インフルエンザと診断されたら、学校保健安全法第19条に基づき**欠席扱いではなく「出席停止」**となります。

平成24年度より出席停止基準が変更され、インフルエンザの場合は「発症した後５日を経過し、かつ、解熱した後２日を経過するまで」（下図参照）となりました。普通のカゼは、熱が下がり体調が改善したら登校できますが、インフルエンザは熱が下がっても登校してはいけない期間が続きます。それは、他の人に感染させないためです。

※どんなに早く熱が下がったとしても、最低、発症した後５日は出席停止となります。

今後のインフルエンザの状況によっては、１年４組以外でも、短縮授業や学級閉鎖等の措置をとることがあります。緊急の場合は学校メールで連絡することがありますので、今後の配信にはご注意ください。

日本教育新聞社に本校の「小中連携教育」について紹介されました（12月8日）

11月12日(水)、本校で小中連携教育の研究発表会が行われ、日本教育新聞社の取材を受けました。

本校の小中連携教育は、全国的に注目されています。

中学校・実践　（第３種郵便物認可）　日本教育

小中の複数校連携の在り方研究

無理せず「できること」から

埼玉・行田市立長野中

中学校1校対小学校複数校での連携はどのようにすべきか―。三つの小学校から生徒が進学してくる埼玉県行田市立長野中学校（柏瀬裕之校長、生徒510人）は、平成25・26年度市教委委嘱で、こうした小中連携の在り方を研究している。このほど研究発表会を開き、その成果を明らかにした。

「先進的な地域の取り組みでは『出前授業』と『9年間のカリキュラム』が前面に出ていて重たかった。それを取り払ったら大分楽になった」。柏瀬校長は研究のスタートを語る。

同校は「できることから始める。できないことはやらない」を前提に研究を推進。教員加配がない状況での「出前授業」は教員の補充や授業の入れ替えなどで中学生に負担を掛け、結果として中学校を苦しめる「9年間のカリキュラム」も、学習指導要領を中学校だけで作り直すのは時間と労力がかかり過ぎるため、最初から行わない方針を立てた。

研究では、児童・生徒、教師、学校生活の3分野で連携・交流活動を実践した。

「出前授業」「9年カリキュラム」負担大きく行わず

月1で「推進会議」

カレンダー作り日程調整も

東小の「中学校調べ」では、小学生の発表を中学生が講評する

同校に進学する桜ヶ丘小が2年の生活科で行う「まちたんけん」の一環で、中学生が中学校内を案内する活動も行った。

教師の分野では、小学校の元担任による新1年生の授業参観を実施。生徒にとっては元担任の参観が刺激になり、元担任にとっては教え子の成長を確認できる。中学校教員にとっては、生徒の情報を集める機会になるなどの利点があった。

また教員同士の親交を深め連携をスムーズにするため、小中合同チームでのスポーツ大会や、小学校教員対象の、中学校美術や理科教員による技法などの講習会を開催した。

学校生活の分野では、中学校の生徒指導教員が小学校で児童に、小学校と中学校の違いを説明するガイダンスや、新入生の保護者説明会で児童対象に体験授業や部活動体験を実施。また卒業生の大半が同校に進学する東小で、児童が中学校を調査し発表する「中学校調べ」を行った。

同校の研究は、「中学校でゼロからスタートし、この会議の運営は今後の課題にもなった。複数校連携では日程調整が一番難しい。これまでは会議のたびに次の予定を調整していたが、今後は、各校の年間行事予定を並べた「小中合同カレンダー」を作成し、前年度中に次年度の主要な推進会議の日程を決めることを計画する。

また研究で出た連携の留意点として「各校に共通する部分と違っていい部分を整理することが大事」と、同校小中連携教育主任の浅見典正教諭は話す。各校の特色や文化を無理矢理一本化しようとすると、ほころびが生じやすいという。

連携推進担当と中学校の管理職が参加。各実践の調整の他、「生徒指導の一貫」を果たすため、約半年をかけて、小・中学校で最低限身に付けさせたい八つの共通ルールを作成した。

一方で、この会議の運営は今後の課題にもなった。複数校連携では日程調整が一番難しい。これまでは会議のたびに次の予定を調整していたが、今後は、各校の年間行事予定を並べた「小中合同カレンダー」を作成し、前年度中に次年度の主要な推進会議の日程を決めることを計画する。

また研究で出た連携

中学校

長野中＝☎048・554・2240